

令和6年度 第1回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

1. 日 時

令和6年6月24日（月）18：30～20：30

2. 場 所

桐生市役所 新館5階 501会議室

3. 出席者

（1）委員（13人）

会 長：天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長〕
委 員：西菌 大実〔群馬大学共同教育学部 名誉教授〕
藤生 五郎〔桐生商工会議所 副会頭〕
茂木 理亨〔桐生商店連盟協同組合 副理事長〕
高橋 尚彦〔新田みどり農業協同組合 常務理事〕
新井 悠大〔桐生広域森林組合 業務部部長〕
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕
小島 由美〔未来創生塾 副塾長〕
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕
村上 恵理〔桐生瓦斯株式会社営業部 次長兼特需課長〕
（欠席者）根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕

（2）事務局（5人）

山田 市民生活部長
森下 SDGs推進課長
金子 ゆっくりズムのまち桐生推進担当係長
高橋 主任
今泉 主事

4. 議 題

1. 桐生市環境先進都市将来構想の改定について

桐生市環境先進都市将来構想は、令和7年3月に策定から10年経過することから、国の2050年カーボンニュートラル宣言や、現在の社会情勢などを踏まえた内容に改定を行う旨説明を行い、配布した素案をもとに委員から意見聴取を行った。また、委員からの意見提出を7月末までとした。

2. SDGs 未来都市の推進(ゆっくりズムのまち桐生の推進)について

SDGs未来都市の推進(ゆっくりズムのまち桐生の推進)について、令和5年5月に国から選定されたSDGs未来都市の推進について、委員より意見を聴取をおこなった。

5. 委員意見（質疑応答）

【議題1】 桐生市環境先進都市将来構想の改定について

【会長】

今回の環境先進都市将来構想の見直しについて、具体的な数値目標を立てた計画を作ることが主題であると思う。国の目標値に準じた目標達成は難しいと思うが、『ゆっくりズムのまち桐生』の精神が国の第6次環境基本計画にも取り入れられていることを鑑み、環境先進都市として目標達成できるようにしていきたい。

将来構想に組み込まれる地球温暖化対策実行計画を策定する中で、区域施策編に掲げられる緩和策と適応策を具体的にどのようにしていくのが検討の中心となると思う。事務事業編の部分については主に市の施設の話が中心となる。区域施策編の緩和策について、家庭部門と運輸部門の温室効果ガス削減割合が大きい。産業部門は企業を中心として一定の削減がなされてきているが、一番難しいのは家庭部門だと思う。どのようにして削減していくのか。各家庭への周知として、ゆっくりズムの周知をするとともに、身近な生活にかかわるものが地球温暖化対策に繋がることを知ってもらうことが重要と考える。

【委員】

現段階の素案は、どこのまちでもできることが書いてあると思う。地球温暖化対策を桐生市民が一生懸命取り組んでも地球の気温が下がるわけでもない。

ゆっくりズムのまちは最先端をいっていると思う。『ゆっくりズムのまち桐生』の主題は、現在はスローモビリティと環境にやさしいライフスタイルとなっているが、なぜやらなくてはならないか理由がわからないと思う。

例えば、非常時の際に、桐生が独立して市民生活の機能を維持していくことができるまちづくりとすれば、大地震や大雨災害に対して必要であることがわかると思う。家庭のCO₂を減らすことは難しいが、地域外で作られたエネルギーを使って車に乗るのではなく、地産地消のエネルギーを使って車に乗ることも大事な考え方であると思う。

生活を安定していくレジリエンスの高い市・環境先進都市として、他の市との違いが出ると思う。やらなくてはならない理由を明確にすると良いと思う。

【会長】

非常時においても普段通りの生活ができることも大切だが、平時において日々電気やガソリンを買っていることにより、地域外へお金が流出していることも知ることが大切である。桐生市民がどれだけ地域外に払っているのか。人口を元に算出できると思う。

自分たちがなぜやらなくてはならないのか理由を知るためのデータになると思う。

【委員】

CO₂の排出には、直接排出と間接排出がある。ガソリンなどは直接排出になるので一番わかりやすいと思う。車はどれだけのCO₂を排出しているのかがわかれば、車で移動することはやめようといった行動に移ると思うし、ゆっくりズムの本質であると思う。

間接排出は、電気が主となる。電気もまた化石燃料由来のエネルギーからつくられてい

る。

現在は、電力自由化により再エネ由来のような環境負荷の少ない電気を選択することもできる。また、地域のエネルギーを地産地消でどれだけ供給できるのか群馬大学ではエネルギーの地産地消の研究を進めている。

2030 年までの目標クリアに向け、各家庭における地産地消エネルギーの再考や、CO2 排出量の少ないガスの導入などが考えられる。そのため、CO2 排出量の少ないエネルギーとは何かを知ってもらい、自分たちがどのようにかわれるかを知ることが重要であると思う。

【会長】

各家庭でできることを考えることは大切であると思う。やり方がいろいろあると思うが、各主体が何をすればよいか、ガイドラインを作るとよりわかりやすくなると思う。

【委員】

参考に誰かが実践している取り組みをコラムにしてみてもどうか。

【会長】

紹介できる仕組みがあると良い。

【副会長】

自動車を使う生活をするのとどれくらい CO2 を排出しているのかが見える化できると良いと思う。徒歩や自転車で生活するとどれくらい違うのか数字が見えると頑張った感が出ると思う。家の中で一番 CO2 が排出されているのが何か意識できると思う。

【会長】

地元の木を使うことも良いと思う。建て替えのときは地産の木を使うなど、取り組みをした方への受賞などがあると良いと思う。健康づくり課が実施しているような 100 日健康ポイントなども参考になると思う。

【委員】

桐生市内で買い物をする事と、市外で買い物する事の比較ができれば、お金の流出の見える化できると思う。高気密高断熱住宅を買うと光熱費が安くなり見える化できることと同じように、得をするものと、損をするものの見える化ができれば良いと思う。

【委員】

住宅関係においては、2050 年に向けて省エネ性能のグレードを国は法によりあげてきている。新築だけでなく、リフォーム住宅も高断熱化の補助金が近年高額になってきている。

補助金政策の情報が見える化できると良いと思う。地球温暖化が加速する中で、近年は命の危機を感じる。光熱費が高いからエアコンを付けない家庭もあると思うが、高断熱住宅にすることにより、電気代が安くなることから、エアコンを使うことに対して苦になら

なくなると思う。

最先端の家を団地内につくると違いがわかりやすく見える化できると思う。

【委員】

2050 年までの計画であるが、桐生市の人口は減る一方であり、インフラの維持ができない状況になることも想定される。災害も含めて CO2 削減の話ではなくもっと上位の話であると思う。

【委員】

公共交通として、鉄道網を生活の中でうまく生かすことができれば良いと思う。

公共交通を利用すれば CO2 排出量は減少する。市の職員が率先して公共交通を使うと良いと思う。市内の交通維持の負担金支出も検討してはどうか。

【会長】

事務事業編において、市職員の通勤に対する CO2 削減の取り組みはあるのか。

【事務局】

市では職員のエコ通勤の取り組みを平成 18 年度から毎月第 1 第 3 金曜日に行っている。全職員の 30%が参加することを目標に取り組みを現在も行っている。

【委員】

市民に対し、自分で取り組みできる情報の記載がないと思う。取り組みの具体的なモデルがあるとわかるが、項目だけでは理解が難しいと思う。

【委員】

国の CO2 排出削減の目標値は高く実現は難しいと思う。日本国民みんなができる程度の取り組みレベルまでもってこないと目標の実現は難しいと思う。市民へどのような取り組みができるのかアイデアを募集してみてもどうか。

【委員】

会社まで通常車で 15 分くらいかかるが、通勤時間帯は 40 分かかる。交通渋滞はガソリンが余計にかかる。国は目標値を掲げているが、目標が高いので達成できないと思う。働く場所と住む場所の立地にまずは問題があると思う。

今の公共交通は、交通弱者用に設計されているため、通勤用ではない。設計をし直さないといけないと思う。

通勤時間帯に上毛電鉄に乗ると桐生市の職員とよく合う。エコ通勤をやっていないのは一般企業であり、自動車メーカーが率先して脱自動車をやらないと脱却できないと思う。

人によっては通勤時間でロスしている時間をなくすこともできると思う。

【委員】

企業は、自社とサプライチェーンの CO2 排出削減に努めており、今後は従業員の通勤もカウントされると思う。

宇都宮市はホンダが自治体と連携して LRT を導入した。利用者は多いようである。桐生市もホンダの下請け企業があるので、従業員への要請も今後出てくると思う。桐生市内で路面電車は引けないが、上毛電鉄をどれだけ活用できるかがかぎとなる。バス会社との協議で通勤時間にどれだけまわせるかなど検討も必要であると思う。桐生の企業はまだエコ通勤を模索していないと思う。

【委員】

以前上毛電鉄の LRT 化の話がでていた。工事に費用がかかることから断念したようだ。

【委員】

上毛電鉄の LRT 化は、現状の道路の拡幅ができないことが原因であった。自動車を減らす発想の転換ができれば実現可能性はあると思う。

【委員】

林業では、県産材の利用に対しての補助制度がある。また、市は森林環境譲与税を活用してほしい。地元の木を活用することとしては、市有林を活用した国の J クレジット制度などの環境価値創出が考えられる。

【委員】

森林の材の活用として、薪ストーブの補助金があると良いと思う。ペレットストーブの補助金は県内他市でも実施している。製材の過程で半端材が出てしまう。半端材を地域で還元できれば良いと思う。薪ストーブを取り入れたいと思う人も近年増えてきていると思う。

【委員】

ペレットストーブを使う人は、既存の石油ストーブとの比較をしていると思う。薪ストーブを使いたい人はそれを使いたい人だと思う。やる気のある人しかいないのが現状であると思う。利用するのが面倒だけど、その分良さを知っている人が使っていると思う。ペレットストーブは薪ストーブと石油ストーブの中間にあるものと捉えられると思う。

【委員】

SDGs 未来都市は、自然を感じ、豊かさを感じ、幸せを感じる未来都市がテーマとなるが、何をやるのか具体的にわからないと思う。

電気が止まるなど非常時の際に混乱をまねかないよう、普段から薪を使った生活をしていけば、影響は出ないと思う。持続可能な生活に振り替えていくことがゆっくりズムの目的であると思う。

今後世界中でエネルギー資源の奪い合いが想定される。日本は持たざる国であり、エネ

ルギーは輸入に依存している。普段から木質のエネルギー源を使うことで非常時に強い生活を担保できると思う。また、快適であることも重要であると思う。

【委員】

まちなかに水路があり、木陰があると散歩しやすくなると思う。昔は水田があり水路に水が流れていた。

【会長】

宝田先生が以前言われていたとおり、桐生は自然をまちの中で感じられるまちであることがポイントになると思う。

国の第6次環境基本計画において、ネイチャーポジティブというキーワードがでてきている。自然との多様性が重要となる。都内では街路樹が植わっており、緑を感じることができる街並みをつくっている。

【委員】

具体的に何をすべきかわからないと思う。計画の中に、『Why』や『How to』を明確にすると良いと思う。また、どうやって浸透させるかが重要である。

未来創生塾の活動では、現在学校教育の中に未来創生塾のカリキュラムを取り込んでいくことを検討している。

住宅について、高気密高断熱の住宅も良いが、日本の従来の家造りも良いと思う。風通しが良く快適である。

【委員】

素案の第3章にある環境先進都市の将来像に記載されている『1. 環境先進都市を目指す理由』、『2. 将来構想策定の理由』の内容が弱すぎると思う。群馬県は災害の少ない県と謳っているが、企業にはBCPを作るよう指示をしている。これを生活のためのLCPに視点を変えてみてはどうか。災害の切り口だけでなく、世界情勢への対策や高齢化・人口減少に対しての持続可能なプランを計画に入れていくのも良いと思う。市民へインパクトを強くすると良いと思う。

【会長】

各個人ができる省エネの取り組みなど入れ込んでいくと良いと思う。実際に実践していることが書ければ良いと思う。

【委員】

市の広報紙に、省エネの取り組み募集をしてはどうか。商工会議所には2,100件程の会員がいる。企業からも意見を出すように相談する。

7月30日に商工会議所主催の講演会を開催するので委員の皆様も参加していただきたい。

【議題 2】SDGs 未来都市の推進(ゆっくりズムのまち桐生の推進)について

【会長】

環境先進都市将来構想と SDGs 未来都市は両方ともに『ゆっくりズムのまち桐生』が中心となっている。そのため、『ゆっくりズムのまち桐生』を中心として二つの取り組みを進めていければと考える。

『ゆっくりズムのまち桐生』の取り組みとして、昨年度はサルビアの播種をおこなってきた。サルビアの取り組みは本年度も継続して実施しており、また、昨年度決めた『ゆっくりズムのまち桐生』のロゴマークについては積極的に使っていただきたい。

毎年度 11 月に実施している未来の環境の集いについては本年度も実施していきたいと考える。

【事務局】

未来の環境の集いについては、10 月 27 日に開催する『あつまれ SDGs2024』と同時開催を検討したい。

【副会長】

あつまれ SDGs と同時開催であると、運営スタッフが足りなくなってしまう懸念がある。

【委員】

未来の環境の集いについては会長・副会長預かりで再度検討させていただきたい。

また、将来構想改定に関する講演会や市民会議のようなワークショップを検討できればと思う。

【委員】

SDGs 未来都市の取り組みにある、桐生市官民共創プラットフォーム事業などは実施しているのか。

【事務局】

官民共創プラットフォーム事業については現在実施しており、企業などからの提案を募集している状況にある。SDGs 金融については現在検討の段階にある。SDGs パートナー登録制度については、現在準備中である。市民参加型の啓発イベントについては今年度もあつまれ SDGs に共催する予定である。

【委員】

パートナー制度は大きい企業だけなのか。小さい事業者も取り組みを行っていると思う。

【事務局】

パートナーの対象は、企業や団体となるので大きい企業だけという決まりはない。

【委員】

パートナーへの表彰の他に、『ゆっくりズムのまち桐生』のロゴマークのシールを作って配布してみてはどうか。配るとより効果的になると思う。

【事務局】

シールの作成については検討していきたい。

【会長】

目に見えた活動していることがわかれば良いと思う。今後もゆっくりズムの活動を広げていきたい。

6. その他

なし

— 以上 —